

## 編集室から

先月号のコラムで触れました小型船舶操縦士の免許証がようやく届きました。

これで法的には、晴れて船外機を付けた船で沖に出られるのですが、そうはどっこい簡単ではありません。まず数年間動かしていなかった船外機がちゃんと動いてくれるのか、整備をやり直さねばなりません。その他に色々そろえるべきものの確認など、資格を持ったが故の義務と責任が付いてまいります。

そんな面倒が不要な手漕ぎのシーカヤックの手作り教室が奥能登にあります。自分だけの艇を数ヶ月掛けて手作りし、出来上がれば、今度は自ら漕いで、海と戯れる…。心は既に、随分とそちらの方に傾いていて、次から次へとやりたいことが出てきて飽きることはありません…(^^;ゞ

今月のコラムに瀧行のことを紹介させていただきましたが、やはり素晴らしい体験でした。終わったあと、猛烈な空腹感があったのですが事実、3kg程痩せました。昔穿いていたズボンがまた穿けるようになり、最近のものは、ウエスト周りが余っています。

瀧行を終えた翌週には、今度は富士山に登りました。静岡生まれですので、産土の山。生家の窓から雄大な富士の姿を見た記憶があります。いつか登りたいと思っていたところ、念願が叶いました。往路は雨に悩まされましたが、今年に入って最高のご来光と地元の方に言われる程の朝日を拝むことができました。来月号にもご紹介させて頂ければと思います。

傍から見ると、遊んでばかりいるように思われていることでしょう。しかし、どれ一つをとっても自分の人生を深く考えさせられる体験ばかりです。

皆様におかれましても、夏越の大祓いで厳しい季節を乗り越えなされますように。(は拝)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2009/08

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

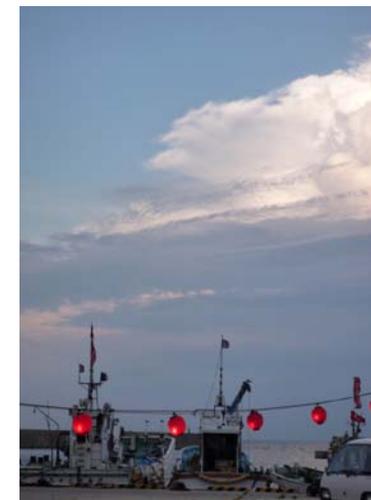


2009/08

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 景 月



能登 薬師の里にて  
by hama

「よそ者、バカ者、若者がまちをつくる」という言葉がある。私はいま、まさに、この言葉を実践している。

現在私は、「社会起業支援サミット2009」静岡」というイベントを企画運営している。ビジネスの手法を通して社会の課題を解決しようとする「社会起業家」を、より多くの静岡県民に知ってもらおう、というイベントだ。

石川県かほく市出身である私は、静岡県民から見れば当然「よそ者」である。二一歳である私はたぶん「若者」であり、就職活動中にも関わらず、イベント発起人としてわき目も振らず動きまわる姿は、あるいは「バカ者」なのかもしれない。

まちづくりをしている、と言うのはおこがましいが、少なくとも大学時代を楽しく過ごした静岡に、少しでも還元したい、という気持ちを持っているのは間違いない。

このイベントの企画運営を通して、私は静岡の魅力な社会起業家と知り合うことができた。例えば浜松市にある一般社団法人ピア

(抗がん剤などで脱毛期にある女性に対してのかつら提供、心身のケアを行う)の代表、佐藤真琴さんからは、大きな影響を得た。

彼女は、一枚百万円が常識であったかつらを、単身中国の工場へアタックするなど独自にルートを開拓し、なんと四万円台にまで下げることが成功した。

「毎日ほとんど寝ていないけど、目の前に患者さんがいるから、やらなきゃいけない。むしろこうやって仕事を楽しめるのは、目の前の課題に気づいてしまった人の特権だ。」

そう言って彼女は笑うのである。私は彼女と会うことで、なんとなく将来のビジョンを得ることができた。

将来、故郷の石川県に戻るかはわからない。ただ、いつまでも「よそ者、バカ者、若者」でいつづけて、全国各地で困難に立ち向かうような働き方もかっこいいなあ、と思うのである。



【プロフィール】  
(すぎむら かずま)  
石川県かほく市出身。星稜高校卒業。静岡大学情報学部四年。勉強や学外活動も楽しいけれど、アカペラサークルでの活動がなにより楽しくてしょうがないですー！

## 濱のいびき 『先達』

せんだつ。枕草子であったろうか。名山の寺参拝を熱望していた人の話があったと記憶している。本人は念願叶ったと思いきや、参道の一寺を参ったに過ぎず、筆者はこう締めくくっている。

何事にも先達はあらま欲しきものなり。

幼少の頃から父に連れられて、よく寺社仏閣に詣でた。その為か、仏教や神道に触れることには違和感が無い。

昨年末、ある研修会で古武道をベースに身体の不思議を極め、整体に活かしておられる河野智聖先生とご縁が結ばれた。先生は、朝日新聞のカルチャーセンターで著名な方々との対談や、著書も多く出されているが、私も一つお若い。

河野先生のお仲間で、丹沢の名瀑に合宿をされるという。このチャンス逃すまいと、早速申し込んだ。

時は文月下旬の休日。初日はキャンプ場の奥にある夕日の滝。今となってはやや小ぶりの瀧と思えるが、最初に見たときはこれに入ることか、正直やや腰が引けた。先生のご指導によって、体と心を整えてゆく。

入瀑の前に、結界を張っていた。先生も修行中に、つい集中力を欠いたとき、瀧の水に混じって石が落ち、足元の岩に当たって砕けた経験をお持ちという。単なる儀式と軽んじてはならないのである。

今回は、初心者にも入りやすいように随分と先生のご

配慮が成されていた。我々の行が終わわり、最後に先生の番となったとき、水遊びをしたくて集ってきて、ずっと待っていてくれていたキャンプの子供たちを呼び込んだ。屈託無く遊ぶ子供たちの中心で、一人瀧に打たれる行者の光景は、正に先生のお人柄を顕していた。

翌日我々が入る洒水の瀧の近くが宿だった。その夜の懇親会後、酒を控えた内弟子の方と先生は、未明の真っ暗間の滝に入られた。この時の凄まじさを表現する言葉を知らない。ただ懐中電灯でうす暗く照らされた滝つぼの中のお姿を拝見している我々も深く胸を打たれていた。

洒水の滝は修験道の道場としても有名なのだそうだ。翌日改めての高さと水量に圧倒されそうになる。が、この名瀑を行ずる光栄に気が締まる。

どれ程の時間、打たれていたことだろう。終わってみると、腕や肩は真っ赤になっていたが、肚が寂かであったことだけは、覚えている。覗いていた方々から、瀧の水がこの身に集って流量が一段と増えていたそうだ。歓迎していただいたのだと思う。

先達の力量で、行は決まるといつ。何事に挑むにも、素晴らしい先達との出逢いが欠かせない。

齢五十を前に、自身は何を次代に先達するのか。改めて深い問いを頂戴したのであった。



今回は4回ぶりに「東北新幹線青森開業に向けて」として、「七戸十和田駅」について紹介する。2010年12月に開業予定の東北新幹線八戸～新青森駅間で唯一の中間駅かつ新駅となるこの駅は、七戸駅(仮称)とされてきたが、7月29日にこの駅名となった。開業前年にしてやっと駅名が決まったが、まずは駅名をめぐる話からはいる。

七戸十和田駅の場所は七戸町内である。現在の七戸町は2005年に旧七戸町と北隣である天間林村と1市1町が対等合併して誕生した。駅の場所は旧七戸町の北端で両町村境であり、新七戸町では両旧町村の中心集落から中間に位置する。

整備新幹線が構想されて以来、駅名が仮称七戸駅であったのは、七戸町を通るからという程度であったからであろう。しかし、盛岡～新青森間は、一時、ミニ新幹線という案もあった。この案でいくと新幹線七戸駅は幻になっていた。旧七戸町には、いつ頃設置されたか把握していないが、新幹線対策室という部署がすでに昭和の段階で設けられており、ミニ新幹線となると町の将来構想を根本から揺るがしかねないことであった。

この路線がフル規格での建設となり、90年代の半ばあたりから駅名をめくり様々な案が出てきた。七戸町に隣接する十和田市はJR駅を持たないため、隣接する七戸駅に「十和田」の名を載せたかった。七戸町はもちろん七戸駅単独が望ましいが、特別な観光地を持たないこの地域(上北郡中部)にあって十和田湖観光への玄関口をアピールするため駅名に十和田湖をつけるのも一案との空気であった。これに対して、旧十和田湖町(現在、十和田市に合併されている)の町長は、十和田湖からかなり離れている七戸駅に「十和田湖」をつけるのは望ましくないなどと発言していた。実際、十和田湖への距離は、七戸十和田駅が現在の新幹線終点の八戸駅より近くなる。

開業後のダイヤは未発表であるが、私が得ている情報では(不確かな話して恐縮であるが)1日10本程度、七戸駅に停車するようだ。八戸と新青森の間で通過する列車が多いのではという予想もあったなか、なんとかほっとできる本数である。

これまでJRの幹線から外れていた七戸町であるが、新幹線開業後にどのような変化があるのだろうか。

観光という面では、「十和田湖」への近接性に加え、いままで野辺地駅(野辺地町)が担っていた下北半島への玄関口という役割も担うであろう。また、新幹線駅の横は国道4号が走っており、1994年に青森県の道の駅第1号として「道の駅しちのへ」が設置されている。この道の駅には七戸町出身の画家鷹山宇一の作品を展示する「鷹山宇一記念美術館」や絵馬館などが設置され「七戸文化村」という名称も持つ。在来線で道の駅と繋がっているところはいくつかあるが、新幹線駅と道の駅が隣接する場所にあるという場所は、東北地方においては私の知る限りここだけではないかと思う。新幹線と道の駅の相乗効果に期待したい。

地域住民の生活という面では、新幹線による青森市と八戸市に通勤通学が可能になるということである。これは七戸駅と新青森駅、八戸駅にはともに僅か15分程度で結ばれる。そうすれば、七戸町から両市との時間距離は大幅に短縮される。自動車利用がほとんどの地域であるが、短時間での通勤通学が可能となる。かつて東北新幹線が開通したとき、宮城県の旧古川市(現在の大崎市)は、それまで東北本線からははずれ在来線で仙台まで1時間半あまりかかっていたものが僅か17分になった。それまで古川市は人口が減り続ける農村都市であったが、劇的に変わった。

七戸町が青森市と八戸市の中間地点という立地がどのような地域変化をもたらすのか、注目したいところである。

## 相続について⑩

### 無効になった遺言状②

今回のケースも、せっかく残してくれた遺言状が、法的に無効だったケースという事例ですが、実際にこのような文言、手法は無効であるという具体例です。

#### Case Study

村本さん(仮名)の父親は、末期がんで亡くなる前に財産を誰にどのように分けるか、遺言状を残してくれました。

ところが、そのときには父親はかなり衰弱しており、村本さんの母親が代筆して作成しました。

その内容は

「遺言者 村本清は、次のとおり遺言する。

一、次の財産は妻村本まゆみに与える 1,自宅 2,××銀行○△支店普通預金口座番号123456 残高387万円

二、長男村本誠治に与える 1,株券 2,骨董

三、その他のおおよその財産は長女村本佳世子に与える

上記遺言のため、配偶者がこの証文の全文を代筆し、氏名を遺言者が自署し、自ら押印したものである

平成20年7月吉日

石川県○×市△▽町▲◎番地

遺言者 村本 清 実印」

#### Answer

- ① 与える: 遺贈なのか、相続なのかあいまいです。
- ② 自宅: 不動産は、登記簿どおり正確に記入する必要があります。
- ③ 残高387万円: 残高は変動する可能性がありますから書かないほうがいいです。
- ④ 株券、骨董: 複数ある場合には、内容が特定できないため、トラブルになる可能性があります。
- ⑤ おおよその財産: あいまいな表現はトラブルのもとになる可能性があります。
- ⑥ 吉日: 日にちが特定できません。これだけで遺言書自体が無効です。
- ⑦ 配偶者がこの証文の全文を代筆: 自筆証書遺言は、全文を遺言者自身が手書きしなくてはなりませんので遺言自体が無効です。また、パソコン、点字なども一切認められません。

今回のように自分自身で書くことが困難なときは、公正証書遺言書として残しましょう。また、遺言は書面にすることが前提であるので、ビデオテープなどの映像メディア、カセットテープなどの音声メディア、および文書をフロッピーなどの記憶メディアに保存したのも認められません。

今年4月に南アルプス山岳図書館が、大井川源流の静岡県川根本町寸又峡温泉にオープンした。寸又峡温泉が開湯して50年、その頃の南アルプスの登山口は寸又峡大間であった。今では静岡市井川、畑薙方面が当地の開発が進んだこともあり、登山口がそちらに移っているのは寂しいが、朝日岳、沢口山、前黒法師岳いわゆる寸又三山への登山客は絶えない。

この図書館の設計は今上映中の「剣岳」に登場する陸軍参謀本部陸地測量部測夫の生田信の孫で、川根本町住人の生田さんである。

図書館と言うよりも図書室の規模だが、そんなことよりも、この図書館の成り立ちがいい。全国に「南アルプスなど山に関する書物のある方ご寄贈ください。」とお願いし、山の図書が集まっている。この中にはわかりやすく経済を説くエコノミストの竹内宏氏の文庫もある。

その図書館の世話役でもある旅館「翠紅苑」社長の望月さんから、\*\*\*静岡市清水区在住の若き登山家である大石明弘氏をゲストスピーカーにお招きして、ヒマラヤ・アラスカ・台湾の山々を始め、南アルプス登山の体験談や提言などを映像と共に語っていただき、さらに、参加者との意見交換を計画しました。この機会にお気軽にご参加ください。登山初心者の方歓迎！！楽しいセッションです。\*\*\*の案内が届いた。

この図書館のことが気になっていたのも、知人らに参加を呼びかけたところ日経新聞の記者、雑誌編集者、奈良県吉野町役場職員らが参加してくださり、この程行ってきた。

登山家大石氏の話はスライド映像付きで、とても面白かった。ヒマラヤ・チョーオユ（8201m）に学生二人で無酸素登頂ほかロッククライミング、アイスクライミング、南アルプス畑薙ダム～荒川岳～赤石岳～畑薙ダムを可能な限りの軽装備で日帰り登山を敢行、いずれも興味深いお話ばかりだった。

さて、この山岳図書館は『山』をキーワードに、さまざまな知識・情報の収集ができるばかりでなく、気軽に集い話し合えるサロンのような形で使っていきたいとのこと、これからもこうしたセッションが時々開かれるので、寸又峡温泉に泊りながら是非のご参加お待ちしております。

